

北海道馬鈴しょ協議会だより

第26号

発行月： 令和6年3月 発行所： 北海道馬鈴しょ協議会(事務局:JA 北海道中央会・ホクレン)

第Ⅳ期事業における新規事業の進捗状況について

はじめに

北海道馬鈴しょ協議会の現事業年度(第Ⅳ期:令和3~7年度)より新規に取り組み始めた2つの事業について前号(第26号)にてお知らせいたしましたが、今回はそれらの進捗状況について報告いたします。

事業メニューおよび事業化した背景などは下記の通りであり、それぞれ令和4年度より取り組みを開始しております。

①新品種の早期普及に向けた取り組み(新品種の種馬鈴しょ早期増殖および試験用種子の配付)

- ・馬鈴しょ生産においては原原種生産からの計画的な取り進めが必要なことに加え、産地が新たな品種の種馬鈴しょ生産に取り組むハードルが高く、初期の種馬鈴しょ生産が進まず確保が難しい面がある。
- ・新品種の早期普及には種馬鈴しょの確保が極めて重要であることから、協議会主導で積極的に初期の種馬鈴しょを確保し、試験用種子として広く無償配付を行う仕組みを構築する。

②地区・JAが主導で進める各種試験等に係る支援

- ・馬鈴しょを取り巻く課題が多く挙げられているが、試験研究機関の人員不足等により委託試験の拡充が難しく、産地課題の解決に向けた取り組みが進まない現状にある。
- ・また、課題解決を新品種に期待する部分もあるが、品種開発には長い年月が必要とされるため、現状の課題が当面続くことを想定し改善に取り組んでいく必要がある。
- ・馬鈴しょの生産振興および面積拡大に向け、現状の課題に対して地区・各産地が自ら改善に取り組むことが期待されることから、試験等に掛かる費用を協議会が助成し取り組みを促進する。

新品種の早期普及に向けた取り組み

- ・令和3年11月開催の第1回北海道馬鈴しょ協議会にて、新品種「ゆめいころ」の早期普及に向けた取り組みを進めることを決定しました。
- ・当面3か年の原種ほ設置を2産地へ委託。早期普及を促す観点より、生産された原種を一足飛びに一般ほへ作付けすることを前提として拡大に向けて取り組んでいます。

令和4年度

- ・「ゆめいころ」の原原種が令和4年産より生産開始。(種苗管理センターにて)
- ・令和4年7月に「**令和5年産原種**(令和6年は種用)要望取りまとめ」を実施したところ、当初計画を上回る**要望量【7JAより2,000袋】**となったことから、急遽、種苗管理センター(原原種生産)および委託産地(原種生産)と協議し、原種ほ設置面積の増加を決定した。(0.6ha→1.3haへ)

- ・原原種生産への反映、原種ほ設置面積の検討のため、早期より次年産取りまとめを開始。令和5年2月に「**令和6年産原種**(令和7年は種用)要望取りまとめ」を実施。概ね前年並みの**要望量【9JAより2,080袋】**となったため、原種ほ設置面積も令和5年産同様に増加させた。(0.8ha→1.4haへ)

令和5年度

- ・「**令和5年産原種**」生産が開始。夏場の異常高温推移で作物には厳しい生産環境であったが、「ゆめいころ」は品質も良好で豊作傾向。要望量を全量満たすことが出来る見通しとなった。
- ・令和5年10月、幅広く普及させる当初の狙いや次年度の原種ほ設置まで時間があることから、「**令和6年産原種**(令和7年は種用)」要望の再取りまとめ」を実施。当初取りまとめよりも要望が増加し、道内各地で広く普及が見通せる結果となった。**【12JAより、2,830袋】**
- ・「**令和5年産原種**(令和6年は種用)」について、取りまとめ以外にも「試験的に」、「少量でも」との問い合わせを複数JAより受け原種ほ委託産地と協議。原種生産の豊作傾向も奏功し、一部格外品も含めて追加配付対応することとし、最終的に「**令和5年産原種**」は**【10JA、2,345袋】**を配付対応予定。
- ・令和5年秋～令和6年春にかけ、「**令和5年産原種**(令和6年は種用)」の配付を現在取り進め中。

表1 「ゆめいころ」の早期普及に向けた委託原種生産計画および実績

	R5年産		R6年産		R7年産	
	当初計画	実績	当初計画	現計画	当初計画	現計画
設置原種ほ	60a	130a	80a	140a	80a	140a
原種出来高 (袋:20kg)	600袋	2,000袋超	800袋	1,400袋	800袋	1,400袋

※原種出来高(計画)は100袋/10aで試算。

表2 「ゆめいころ」の普及状況及び成果見込(R6.3月現在)

	R6年産		R7年産		R8年産	
原種配布量 (要望量)	R5産原種配布予定量 2,345袋		R6産原種要望量 2,830袋		R7産原種要望量 集約中	
生産予定 面積(A)	一般ほ 20.1ha	採種ほ 1.2ha	一般ほ 22.5ha	採種ほ 3.5ha	一般ほ 22.5ha	採種ほ 〇〇ha
増殖予定 面積(B)			12.0ha		35.0ha	
計(A+B)	20.1ha		34.5ha		57.5ha	

※R6・7年産生産予定面積(A)は産地申告値。

※R7年産以降は原種要望量が満度配付できた場合のシミュレーション(10袋/10a播種)。

※増殖予定面積(B)は、当事業の配付種子で採種生産を行う予定のもの(10倍増殖)。

※R8年産一般ほ(斜字)は前年同様要望量があった前提での試算。

- 当事業活用による一般ほの作付面積（予定）は、令和6年産で約20ha、令和7年産で約35ha、令和8年産で約60haの作付が見込まれています。
- 本来の増殖体系であれば、一般ほでの生産は令和7年産からですが、事業を行うことで1年早い本年（令和6年）より一般ほでの生産が開始されます。
- また、当事業以外にも、独自に種子生産を行い拡大予定のJAもあるため、かなり早いペースでの普及・拡大が見込まれております。
- 当初目的の「早期普及・拡大」に一定の貢献ができたため、当事業については「**令和7年原種生産（令和8年は種用）をもって終了**」とさせていただきますが、実際の販売、消費地評価を得るのはこれからであり、今後、販売を担うホクレンとも連携の上、更なる普及・拡大・定着に向けて取り組んでまいります。

地区・JAが主導で進める各種試験等に係る支援

令和4年度試験

- ・令和4年度は、5JA・6課題にて実施しております。（「→」以下は結果要約。）
- ・令和4年産の馬鈴しょ生産背景は、植付作業は順調に開始したものの、6月以降、曇天・日照不足で推移し、また、8月には断続的な降雨に加え、一部地域では集中豪雨による浸水・冠水などの被害も発生しました。
- ・日照不足の影響から特に早生品種は小玉傾向に仕上がり、また、降雨による収穫作業への影響や腐敗の発生などで、品質・収量にも影響を与えました。
- ・9月以降の天候回復により、中盤性品種は肥大が進み、総体的な収量は概ね平年並みとなりました。

①新品種の適応性試験（JA ようてい）

ジャガイモシストセンチュウ抵抗性の新品種「ゆめいころ」の栽培適性と有望性の検討

- 「ゆめいころ」は比較品種「男爵薯」よりも玉の肥大が早く、収量も優る結果。試験を継続して販売先評価なども確認の上、普及を検討していく。

②畦間散布の防除効果確認試験（JA めむろ）

馬鈴しょの軟腐病防除に対する畦間散布の効果を確認

- 黒あし病の発生も重なり、畦間散布の効果を判断することが出来ず、次年度は散布薬剤や散布時期などの検討が必要と考えられた。

③土壌タイプ別における品種の適応性確認試験（JA めむろ）

新品種「しんせい」をはじめ、加工用馬鈴しょ5品種・系統の地域適応性を確認

- 新品種「しんせい」が収量性、チップカラーが優れ、腐敗塊茎が少ないことで収穫作業の労働負担軽減につながることから有望と考えられた。

④品種比較試験(JA こしみず)

ジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性品種の栽培方法の検討

→「フリア」は従来品種と同程度の収量を得られ、また、「ユーロビバ」においては「フリア」よりも澱粉収量が優れ、玉離れも良いことから、普及性があると考えられた。

⑤加工用馬鈴しょにおける簡易選別出荷試験(JA 士幌町)

簡易選別出荷の導入が生産者の収穫労働力及び販売収入、JAの受入作業に与える影響を調査

→簡易選別でも規格外率などが低いレベルに収まったものの、ほ場条件や機器改造などが必要と考えられ、気象条件に寄らずに簡易選別できる機器や技術の併用が望まれる。

⑥加工用馬鈴しょにおける高窒素肥料を用いた栽培試験(JA ところ)

高窒素肥料を用いて減肥とコスト低減を図り、慣行栽培と比較して省力化や施肥効果を確認

→施肥量減少でコスト低減につながったものの、規格内収量などは慣行区が優り、費用対効果も慣行区が優る結果となった。単年度の結果であり、普及には更なるデータ蓄積が必要と考えられた。

令和5年度試験

- ・令和5年度は継続を含め6JA・8課題を実施しております。
- ・令和5年産の馬鈴しょ生産背景は、植付から6月上旬までは適度な降雨もあり順調に推移。7月中旬までは干ばつ傾向でしたが気温も高めで農作物全般的に前進化傾向となりました。
- ・7月下旬からは連日30℃を超える真夏日が続き、35℃を超える猛暑日も道内各地で記録するなどの異常高温で推移しました。
- ・高温により地上部が早く枯れ上がり収量への影響も懸念されたものの、玉数は平年並み～やや多く、前進化傾向であったため肥大も進み、平年を上回る収量を確保することが出来ました。
- ・一方で、高温の影響から腐敗果の発生や早期からの発芽、また塊茎表面のそうか病やラセットなどの障害も見られ選別作業に苦勞する年産となりました。

①省力化・コスト低減試験(JA さらべつ)

馬鈴薯疫病防除のドローン活用による省力化並びに経済的効果の検証

②防除コスト低減試験(JA うらほろ)

防除コスト低減に向けた薬効比較および経済効果の検証

③種子馬鈴薯の小粒化技術の確立(JA めまんべつ)

種子馬鈴薯のジベレリン処理による小粒化技術の確立

④施肥コストの低減試験(JA こしみず)

コスト低減のための適正施肥銘柄の普及性確認

⑤新品種適応性確認試験(JA めむろ)

ジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性新品種「しんせい」「CP14」の地域適応性確認

⑥新品種の地域適応性・普及性の確認試験(JA めむろ)

ジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性新品種「しんせい」「CP14」の実圃場での生産性検証・普及性確認

⑦種子予措効果確認試験(JA めむろ)

食用馬鈴しょ「マチルダ」の種子予措効果の確認

⑧加工用馬鈴しょにおける簡易選別出荷試験(JA 士幌町)

加工用馬鈴しょの簡易選別出荷による生産者の収穫労働力・販売収入、JA の受入・検品作業の改善

○令和4年産は曇天・日照不足、集中豪雨、令和5年産は異常高温など、気象災害ともいえる条件下での各種試験となったこともあり、結果が判然としないものが多かった印象です。

○前述したように、試験場等での試験拡充が難しい中においては、産地自ら課題解決に取り組む必要性が高く、引き続き試験に取り組み結果を出して頂くことを期待します。

○有効な結果が得られたものについては他地区でも参考にして頂き、各地区での課題解決の一助になればと考えております。

○令和5年度の試験結果は現在集約中ですので、令和6年度北海道馬鈴しょ協議会総会時に報告させて頂く予定です。

○なお、過年度の試験内容や結果等詳細につきましては、JA 北海道中央会公開サーバー（道内 JA 限定）内で資料掲載しておりますのでご参照ください。（令和5年6月6日付「北海道馬鈴しょ協議会 令和5年度総会資料」）